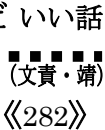


非優業の宮田さんはボランティアでごみ拾いを続けています。趣味は拾い集めた吸殻でつくる「吸い殻アート」。見事な「虹の架橋」を描いてもらいました。スゴイっ！

虹の架橋ハシ検索で、インターネットからでもご覧いただけます。



幼稚園、保育園・小・中・高等学校など十三団体。
入場無料・要入場券（入場券は、笠懸野文化ホール、公民館、図書館、社会教育課で配布しています）

パルでみどりジュニア音楽祭
二月三日十二時半開演

今年も笠懸野文化ホール・パル
で「みどりジュニア音楽祭」が開
催されます。この音楽祭は、MI
DORIジュニアアカデミー事業
の一環として昨年度から新日本
フィルハーモニー交響楽団フルー
ト奏者の荒川洋さんに市内四中
学校の吹奏楽部の指導とジュニア音
楽祭の監修もお願いしています。
音楽祭の内容も充実したことから
来場者数も大幅に増加しました。
今回の出演は市内幼稚園、保育

今回の音楽祭
には、監修を担
当したフルート
奏者の荒川洋さ
んのほか、大山
大輔さん、佐藤
勝重さんもゲス
ト出演して音楽
祭を盛り上げて
くれます。



大山大輔さんは劇団四季ミュージカル「オペラ座の怪人」の怪人役をはじめ、数々のオペラ作品に主役として出演し、ジャンルを超えた分野でも大活躍しています。ピアノストの佐藤勝重さんは、パリ国立高等音楽院を卒業。全日本学生音楽コンクールなどの審査員を務めるほか、桐朋学園大学、昭和音楽大学でも指導に当たっています。

MIDORIジュニアアカデミー事業は、市内の子供たちだけでなく、みどり市全体の音楽レベルの向上にも貢献しています。

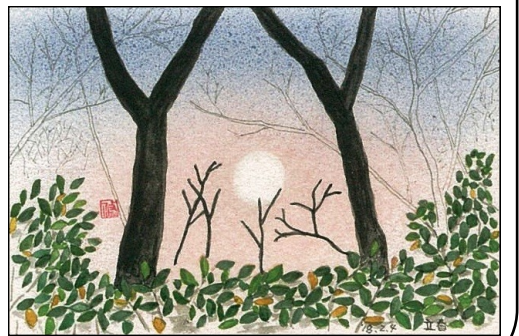
が、なんで神さんてよばれるんじやろうか？」と悩み、憂鬱になってきました。

びんぼう神は長者の家の福の神に相談に行きました。その時、福の神は大きな袋を担いで門を出るところでした。

福の神は「どうもこのごろどこの家に行っても、願いを叶えれば叶えるほど人間の顔が妙にギラギラして、人相まで悪くなるような気がして、すつきりせんのじゃ。いっそわしらを作りなすった大神様のところへ聞きに行ったらどうじゃろか」と言います。

びんぼう神は大神様の前で

齋藤修一さん『立春』



四国で建設会社を経営する齋藤修一さんから毎月「エムズ新聞」という情報紙が届きます。今から十八年前、徳島から大間々へ訪ねてきて下さり、一緒に赤城のペンションに泊まつて新聞づくりや街づくりの話で盛り上がりました。齋藤さんの新聞も二〇年を超え、「修ちゃん日記」という手書きのコラムや、ご自身が描いた絵を拝見するのが楽しみです。齋藤さんは毎年、描き貯めた絵十二枚で卓上カレンダーを作っています。童話の挿絵のような心とむ作品ばかりです。二月の絵の題名は「立春」です。

一月十二日（土）
今朝は三月二日になかめ余興場
で開催する「中村七之助特別舞踊
公演」のチケット発売日だった。
十時の発売直前に朝六時から芝居
小屋前の駐車場に行列ができた。
寒い中で長時間並んでもらうのは
申し訳ないのが発売二時間前に

理券を配ることにした。一人二枚に制限した。販売開始からすぐに一部、二部とも令での指定席が売り切れた。全国のパレイがイトで同時に発売した分も即時完売した。昨日、黒子の会の仲間十五人が芝居小屋に集合、完璧に準備したので混乱はなかった。三十年前は取り壊しの危機に瀕していた芝居小屋。あの頃は中村屋の歌舞伎が来るとは夢にも思わなかった。「あんた芝居小屋に金をかけて改修する意味はない」と外芝居小屋のせいで文化会館がでかい」と叱られたこともあった。今日は一日、券を買えない」といってお叱りの電話が殺到した。中村七之助に有りかあ、って深くお詫言申し上げた。



びんぼう神様さま

Kindness
from God

著・文 高野淳子



徳間社

初午や祖父も供えし沖足利屋では祖父の代から毎朝、神棚と恵比寿大国、お稻荷様と仏壇に御飯と水をお供えすることから一日が始まります。



「大神様、何でわしみたいなもんを神さんとして作りなされたんじや？なんで人が苦しんだり悲しんだりするようなことしかできんわしが鬼じやのうて神さんなんじや」

大神様は「びんぼう神だよ、やつとわたしが人間界にお前さんを送り込んだわけを考えてくれるほどに成長してくれたのお。お前さんは私と同じ神なんじや。下つ端も上も無い、よい神も悪い神も無いのじや。今までどおりあの家を貧乏にし続ければ良い」

びんぼう神が松吉の家の神棚に戻ると、いつものように松吉親子が神棚に向かってパンパンと手を打ち「今日も一日よろしくお願います」と拝まれました。

びんぼう神は「貧乏になっても幸せな人間がいるもんじや」と素直に夫婦の感謝の言葉を聞くことができました。

それから松吉の家には厄病神や死神まで来て松吉たち親子を更に苦しめます。最後はお薬師さんや閻魔大王まで登場、涙が溢れて読めないほどの感動でした。

この世には良いことも悪いこともなく、ただ有り難いことだけがあると気づかせてもらえるお話でした。

びんぼう神様さま



初午や祖父も供えし油揚げ
 足利屋では祖父の代か
 ら毎朝、神棚と恵比寿大
 国、お稲荷様と仏壇に御
 飯と水をお供えすること
 から一日が始まります。
 百年前からあった屋敷稲荷様の
 祠を三年前に建替えました。当初
 ピカピカだった銅板葺きの屋根も
 落ち着いた色になってきました。
 今年の初午は二月二日です。初
 午には油揚げと七色菓子をお供え
 するのが我が家のしきたりです。
 私が子供の頃から祖父や父と一
 緒に手を合わせたお稲荷様に向っ
 て、今は孫と一緒に柏手を打って
 平穩を祈っています。家の伝統を
 引き継げるのは幸せなことです。

